



会社が 社会に できること

SMILE SUSTAINABLE!

オカムラグループ 社会貢献活動アーカイブ

okamura

オカムラグループの社会貢献活動

オカムラグループの社会貢献活動 02

地域活動への参画

地域の皆さんへ生産事業所を紹介 03

東大阪市の工場イベントへの参画
～ 関西オカムラのオープンファクトリー～ 04

山陽オカムラの地域貢献活動 05

地域連携による部活動指導を通じた教育支援
～ 富士事業所 オカムラソフトボール部 奮闘記～ 06

海外拠点での社会貢献活動 07

治療中の子どもたちとその家族を応援
～ 追浜事業所 親子工場見学会へ招待～ 08

地域で取り組む清掃活動 09

災害・人道支援

被災地支援・人道支援 10

生産事業所の災害時に備えた地域連携 11

富士事業所の地域に対する取り組み 12

次世代人材育成

奨学金による次世代の支援
～ JEES・オカムラ次世代育成奨学金～ 13

環境活動を通じた地域社会との共生 14

特別支援学校や大学での人材育成 15

中高生向けの探究学習プログラムに参画 16

～ 2023年度の「コーポレートアクセス」～ 17

インクルーシブな社会に向けた取り組み

みんなでインクルーシブな社会の実現へ 18

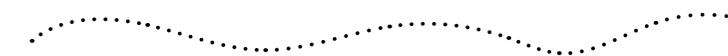
多くの視点で考えてみる「働きかた」 19

文化芸術・スポーツ支援

文化芸術支援 20

スポーツ支援 21

このアーカイブにひょっこりと出てきて
皆さんと一緒に読み進めていくスマイルパーです



スマイルパー

ウーパールーパーのエラが大きくなるには諸説あるんだけど
周りの環境がいいほどフサフサになるって言われているよ。
ぼくはまわりのみんなが生き活きとしてスマイルが広がるほど
うれしくなって生き活きとしてくるんだ。
みんな元気だとぼくも元気ぶらなかって
自然にエラが広がりたちまちパワーがわいてくる。
すくすくと明日へ伸びゆくのはみんなといっしょだから。
すべての人のすこやかさを糧にこれからも成長していきたいな。

Activity

たいせつなのは・しゃかいとの・とりくみ

オカムラグループの社会貢献活動

オカムラグループ社会貢献活動方針

2021年5月に「オカムラグループ社会貢献活動方針」を制定しました。

オカムラグループの創業の精神は、「創造、協力、節約、貯蓄、奉仕」の5つの言葉からなる社是と「基本方針」によって企業文化として定着し、グループの経営と事業活動に受け継がれています。基本方針の中には「経営は常に社会との調和をはかる」という一節があります。創業から現代に引き継がれるこの精神を礎に、広く社会課題の解決に資する取り組みの進展にむけ、オカムラグループ社会貢献活動方針を以下に定めます。

1. 地域・社会とのさまざまな対話・交流を通じて、社会と共生し、信頼される存在となります。

生産事業所・事務所拠点の地域の方々、自治体からの要望・要請等に真摯に対応します。

2. 事業で蓄積した知見・経験を生かし、社会課題の解決に貢献します。

- 重点分野：災害支援、次世代人材育成、地球環境保全、「人が活躍する場」に関連する分野。
- 上記の重点分野において、経営資源を積極的に活用し、社会課題の解決に貢献します。
- 社内外と積極的に共創します。

3. 従業員のボランティア活動を支援します。

従業員は広くボランティア活動に参加し、それによって得られた知見を事業活動に還元することで社会課題解決に向けた好循環を構築します。

●ボランティア休暇

従業員のボランティア活動への参加を支援するため、ボランティア休暇を設けています。従業員が保有している傷病休暇（有給）のうち、年間5日を限度にボランティア休暇として利用することができます。イントラネットや社内報等で休暇の申請方法や利用者の声などを紹介し、利用促進を図っています。

●サステナビリティ活動表彰制度（社内）

事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの開発・提供に向けた意識の向上と実践を促すため、2003年度より環境活動表彰制度を設けて社内の優れた活動を表彰してきました。この表彰制度を2022年度に改定し、サステナビリティ活動表彰制度としました。SDGsの17の目標との関連性を加味して、「環境負荷低減・削減の部（設備・省エネ）」「サステナブル事業推進の部（製品・サービス・物件提案など）」「サステナブルな社会に向けた活動の部（従業員・地域社会・学校など）」の3つの部門に分けて評価を行い、表彰しています。「サステナブルな社会に向けた活動の部」の表彰は、社会貢献活動方針に則った活動促進を目的としています。

サステナビリティ活動の中でも特に地域社会や学校などと取り組んだ社会活動をこのアーカイブでご紹介

サステナビリティ活動表彰の中でも特に「サステナブルな社会に向けた活動の部」の取り組みや、オカムラグループの従業員、地域社会、学校などが一丸となって取り組んだことをメインに、文化芸術やスポーツ支援までの幅広い活動をこのアーカイブでご紹介します。近年のトピックスを中心とした、2024年までの活動報告となっています。こうした活動の多くは試行錯誤の連続ですが、オカムラグループは未来へ向けて、社会貢献活動を継続しながら、すべての人々が笑顔で生き生きと働き暮らす社会の実現へ向かっていきます。

みんなから
しんらいされるって
だいじだよ





こどもたちの・みらいを・そだてたい

地域の皆さんへ生産事業所を紹介



工場での仕事について 学ぶ機会を小学生たちに提供

オカムラグループの生産事業所では、取引先のお客さまや社会学習の一環で企業の仕事を学ぶ子どもたちの工場見学を実施しています。工場見学では、製品が作られる工程やさまざまな工夫、技術の継承による人材育成などを紹介しています。

追浜事業所（神奈川県横須賀市）では、小学生を対象に「夏休みものづくり工場見学」を開催しています。イスに使う革の切れ端を用いたコインケースづくりや、1枚のスチール板からいくつもの工程を経てできあがるカードケースづくりの体験を通して、ものづくりの楽しさを伝えています。

また、つくば事業所（茨城県つくば市）では、地元の真鍋小学校の小学生を工場見学に招待しました。御殿場事業所（静岡県御殿場市）や富士事業所（静岡県御殿場市）では御殿場市の親子を対象とした工場見学の受け入れを実施しています。



御殿場事業所での 「親子工場見学会」

静岡県御殿場市では、市内に住む小学生と保護者を対象に、大型バスで移動しながら市内のさまざまな工場を見学し、地元の産業に対する理解を深めてもらうことを目的とした「親子工場見学会」を開催しています。

御殿場事業所では、「生涯学習及びキャリア教育の一環」への支援として、この工場見学を受け入れています。冷凍冷蔵ショーケースの製造工程やスーパーマーケットを再現したショールームの見学、電動ドライバーを使ったビス止め体験を通じて、ものづくりへの理解を深める機会を提供しています。

地域の子どもたちが集う 「追浜デー」に参加

毎年、横須賀・追浜エリアの皆さんが楽しめるイベントとして、追浜地域運営協議会と横浜 DeNA ベイスターズが共催で、「追浜デー」が開催されています。このイベントは2014年の「追浜子どもデー」から始まった親子イベントです。追浜事業所はこのイベントに参加しており、イスの展示を行っています。



「追浜デー」(2019)でのブースの様子

中学生に向けた インターンシップを実施

エヌエスオカムラ（岩手県釜石市）では2023年に、近隣の中学校に協力し、中学生向けのインターンシップを行いました。参加したのは、大平中学校の2年生と、釜石中学校の2年生の生徒たちです。大平中学校は以前よりオカムラが出前授業を行うなど関係が深く、地元の企業として親しみを持っていただいています。インターンシップでは、生徒たちが真剣なまなざしで積極的に梱包作業や部品の仕分け作業に取り組んでいました。



こどもたちの
あしたにいきる
ちからになるかな



ひとくちメモ

中学生の職業体験会に参加

高島事業所（山形県東置賜郡高島町）では、企業が学校に出向き用意した職業体験プログラムを生徒に体験してもらう「WAKU WAKU WORK in 高島中」に参加しています。2024年度は「木棚づくり」を体験してもらいました。



Event 

ひらかれた・こうじょうへ・ようこそ

東大阪市の工場イベントへの参画

～ 関西オカムラのオープンファクトリー～



オープンファクトリーの イベントに関西オカムラが参加

大阪府東大阪市は、さまざまな規模・業種の企業が数多く存在し、工場周辺に住む人も多い地域です。東大阪市では、工場を一般に開放して、企業と住民が交流を深めるイベント「オープンファクトリー ーばへ行こう！」が2018年度から開催されています。このイベントは、普段閉ざされた工場を地域の皆さんに開放し、地域のものづくりを知ってもらうとともに、文化発信の場としても工場が機能することを探る試みです。

関西オカムラ（大阪府東大阪市）*も、地域の工場として2021年よりこのイベントに参画し、東大阪市を「ーば」から盛り上げています。

*2025年4月1日より株式会社オカムラに統合



オカムラグループならではの ものづくり体験などで交流

2021年の「オープンファクトリー ーばへ行こう！」では、板金や塗装などの製造工程の見学、カードケース作成ができるものづくり体験を行いました。さらには製造時に潜む危険を理解するための体験、フォークリフトに乗って写真撮影ができるフォトスポットの設置など、さまざまな催しを用意。屋台や青空ヨガ教室も開催しました。

2022年は、鉄板へのネジ穴加工や組み立てといった工程の体験、フォトスタンドを作るワークショップ、イスを使ったヨガ体験などを行いました。

2023年は、スチールの曲げ・溶接体験としてスマートフォンのスタンドづくりを実施。飲食ができるマルシェや、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、輪投げ、紙芝居などのお祭り体験ができる催しも好評でした。

2024年は、地元でアルコールインクアート（特殊なインクを使ったアート）の活動をされている中嶋裕子さんをお招きし、アート体験を行いました。恐竜キャラとのラジオ体操やビンゴ大会も開催し、参加者の皆さんとともに笑い、盛り上がりました。



相互理解の場を設けながら 地域・社会との共生へ

いずれの年も、関西オカムラとオカムラ関西支社、関西オカムラ労働組合、オカムラ労働組合近畿支部それぞれに所属する従業員が「ーばへ行こう！実行委員」を務め、イベントの実施内容を検討しました。

また、開催にあたっては社外からも多くの方々に協力いただきました。イベント当日は朝から多くの来場者が訪れ、地域との交流や企業間の交流を深めました。

こうした活動によって地域の皆さんとの交流を深めることは、社会との共生にもつながります。これからも相互理解の場をどのように設けるか模索しながら、地域とともに歩み続けます。



こんなこと
してよって
つたえられるね



ひとくちメモ

関西オカムラはオフィスデスクなどの生産拠点

関西オカムラは、高品質なオカムラ製品を支える、国内製造の中核拠点です。最先端のオフィスシステムや、学校・病院などで使われるデスクやテーブルなどを生産しています。

Contribution 

さまざまな・こうけんの・しかたがある

山陽オカムラの地域貢献活動



自転車地域を元気にする大会の メイン会場に！

山陽オカムラ（岡山県高梁市）では、敷地内のグラウンドや駐車場をさまざまな用途に貸し出すなど、柔軟な形で地域貢献ができるように活動しています。

「ヒルクライムチャレンジ グランfond高梁」は、岡山県高梁市で2023年から開催されている新しいサイクリング大会です。グランfondとはイタリア語で「長い距離を移動する」という意味で、イタリアではロングライドの自転車イベントのことを指します。山陽オカムラは、このイベントに協賛するとともに、工場敷地内のグラウンドをメイン会場として貸し出して運営に協力しています。ここでは開会式が行われ、スタート・ゴール地点にもなり、大会の一つの顔になる場として機能しました。

この大会のコンセプトは、「キーワードは『1/365 + 364/365』1日の大会を1年の地域活性に活かし、自転車で地域を元気にします。」です。山陽オカムラはこうした考え方に共鳴し、地域活性の一助になることを願いながら取り組んでいます。



幼稚園児のお散歩や 小・中・高校生の学びの場として活用

高梁市内の幼稚園の春のお散歩会場としてグラウンドを貸し出しています。小学生や高校生の工場見学、中学生の職場体験、高校生のインターンシップ受け入れなども行っており、社会や産業、ものづくりについて学んでもらうとともに、山陽オカムラのことも知ってもらえるように努めています。



スポーツ体験の場に グラウンドを貸し出し

グラウンドを、地域の少年野球チームの日々の練習場として貸し出しています。その他、高齢者も楽しめるグラウンド・ゴルフの会場として使用するなど、スポーツ体験の場として地域の皆さんの笑顔を支えています。

地域のイベント時に 駐車スペースを提供

高梁市で毎年開催されている「市民健康づくり 愛らぶ高梁ふれあいマラソン大会」や「備中たかはし町家通りの雛まつり」のイベント時には、敷地内の駐車場を無料で貸し出しています。地域活性化のイベント運営に協力し、地域の皆さんの交流をサポートしています。



ひとくちメモ

山陽オカムラはスチール家具や店舗什器などの生産拠点

山陽オカムラは、1988年に設立した前身のJTオカムラから、2004年に社名変更しました。スチール家具全般や店舗什器（棚、ディスプレイ、その他）などの製造を行っています。

きっと
もたらうも
ほほえんでいるよ



Softball 

いろんな・せだいが・ひとつのちーむ

地域連携による部活動指導を通じた教育支援

～ 富士事業所 オカムラソフトボール部 奮闘記 ～



「チーム富士岡」の一員として 中学生に技術や心構えなどの指導を行う

富士事業所の近隣にある御殿場市立富士岡中学校では、学校と地域とが連携した組織「チーム富士岡」を発足して、学校・保護者・地域の三者連携により子どもたちの健やかな成長を支援する取り組みを行っています。背景には、教員の働き方改革が進む一方で、部活動の指導として子どもたちに関わる時間や日数に制限が求められるという社会課題があります。2021年にオカムラのソフトボール部がこの取り組みに参画し、富士岡中学校女子ソフトボール部の臨時コーチとして、基礎練習やバッティング練習、競技に臨む心構えなどについて指導しました。

前向きさや他人への思いやり、 関係者への感謝の大切さを伝える

富士岡中学校女子ソフトボール部の生徒たちに指導を行うにあたって、技術の前に「どうすればソフトボールを楽しめるか?」「団体競技の難しさ」「感謝の気持ちの大切さ」を伝えました。また、「元気に声を出して前向きな雰囲気をつくる!」「他人を思いやり、成功したら共に喜び、失敗したら励ますチームづくり!」「ソフトボールができるのは、いろいろな関係者のおかげ!」という考え方は将来においてもとても大切であるという心構えの指導を行いました。技術面では基本的な個別指導を中心に、すべての生徒へ行き届く指導を行うことができ、その進歩は目覚ましいものでした。顧問の先生からは日時指定で依頼を受けるほど信頼をいただきました。

ソフトボール部をきっかけに より関係性を深める

ソフトボール部の活動をきっかけに、富士岡中学校から依頼を受け、1年生を対象とした富士事業所でのフィールドワークや、2年生を対象とした出前授業などを実施。地域の学校である富士岡中学校との関係性をより深めることができました。社会科教育の場面で、富士事業所が関わるきっかけにもつながりました。



まなびあうことって
たいせつだし
たのしいね



INTERVIEW



富士事業所 中井工場
工場長(当時)
(ソフトボール部員)

勝又 光彦

“ お手本になろうとする中で仲間の大切さを学びました ”

この活動をする前に、地元企業として、そして上場企業の従業員としてどうあるべきかをソフトボール部員全員で再認識しました。身だしなみはもちろん、あいさつ、話し方、道具・用具の扱い方、タイムマネジメントなど、中学生のお手本となれるような対応が求められます。これは、オカムラ社員としての自覚を取り戻す、いいきっかけにもなりました。

富士岡中学校女子ソフトボール部の生徒たちは、中学生で難しい年頃でもあり、思うようにいかないことも多々ありました。例えば、声を出そうと言っても、恥ずかしい・ダサいという気持ちが先行してしまいます。そういう時は、自分たちがお手本を見せて、

声を出すとチーム全体が盛り上がる・良い雰囲気になることを伝えました。回数を重ねて徐々に自発的にあいさつができるようになり、自然と声も出てチームの雰囲気も変わりました。生徒たちの成長を見て、改めてチーム力・仲間の大切さを学ぶことができました。さらには活動を通じて、地域全体に富士事業所をはじめオカムラの認知度を上げることもつながったと感じています。

現在は、別の形での地域連携を開始しようと計画を練っています。こちらオカムラ宣言である「人を想い、場を創る。」に通じる活動に進展するようサポートしていきたいです。

Overseas 

かいがいでも・えがおの・わをひろげて

海外拠点での社会貢献活動



タイの保育施設への訪問・寄付で 子どもたちと交流

オカムラグループは海外拠点においても、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。

タイの仏教ではタムブンという欠かすことのできない概念があります。徳（ブン）をいかに積む（タム）かで現世と来世の不幸が決まるという考え方です。お寺への参拝だけではなく、社会的弱者を助ける行為などもタムブンです。Siam Okamura International (SOI) (タイ・バンコク) では、安心できる生活とともに働く人たちの幸福度を上げる活動として、社会貢献活動に取り組んでいます。

2023年12月に、SOI近郊のスラム街にある保育施設に利益の一部を寄付しました。その保育施設は寄付金などで運営されており、金銭的に子育てが難しい保護者の助けを行っています。SOIでは保育施設の子どもたちとの交流や運営の手伝いを行っています。

タイの子どもの日に 文房具やお菓子をプレゼント

Siam Okamura Steel (タイ・サムットプラカーン) では、2019年に、毎年1月第2土曜日のワンデックと言われる子どもの日に、周辺の工業団地にある保育園の園児たちに文房具やお菓子をプレゼントしました。また2023年には、保育園・小学校への文房具の寄付を行っています。



地域をきれいにするための 清掃活動などへの参加

PT. Okamura Chitose Indonesia (インドネシア・ジャカルタ) では、2022年と2023年に、タンゲランという都市にある廃棄物処理場への寄付や、市街地の清掃活動を行いました。



Siam Okamura International

Miss. Arty

INTERVIEW

“ 子どもたちの笑顔につながるよう
務めていきたいです ”

子どもたちとの交流や寄付活動の機会ができたことをうれしく思います。保育施設で楽しく過ごしている子どもたちの笑顔が印象的でした。私たちの基本姿勢の一つ「SMILE 私たちにかかわる、全ての人の笑顔のために」にもあるように、子どもたちの笑顔が続くように、これからも地域貢献活動ができるよう日々務めていきたいです。



PT. Okamura Chitose Indonesia

釜澤 裕也

INTERVIEW

“ 無理をせずに小さな地域貢献活動を
しています ”

2022年8月からジャカルタに駐在しています。現地の仕事仲間たちと、普段からお世話になっているインドネシアの国へ、小さな地域貢献活動を無理をせずにやっています。「やらぬ善より、やる偽善」がモットー。

ちいさなことで
やることは
おきなゆうきだよ



Memory

おもいでは・いつでも・こころのささえに

治療中の子どもたちとその家族を応援

～ 追浜事業所 親子工場見学会へ招待 ～



小児がんの子どもと家族を 地域で応援するプロジェクト「ちあふぁみ！」

神奈川県立こども医療センターは、小児がん拠点病院の役割を担っており、全国各地から患者の皆さんが、さまざまな小児がんを克服するために長い間入院を繰り返しながら治療を受けています。

コロナ禍で家族の面会時間などが制限された2020年に、神奈川県立こども医療センターの小児がん診療に携わる医療スタッフが中心となり、小児がんの子どもと家族を地域で応援するプロジェクト「ちあふぁみ！」が立ち上がりました。名称の「ちあふぁみ！」は、「Cheer Families On！（家族を応援する！）」から来ています。

ものづくりに触れて 夏休みの思い出に

オカムラは、同じ神奈川県に本社をはじめ複数拠点を持つ企業というご縁から、「ちあふぁみ！」の活動に協力しました。2023年にイスとデスクの寄付を行い、その際には「病室のベッドの横に置いてあると勉強しやすい、イスも座りやすい」などの声をいただきました。

そして2024年に、「夏休みの思い出に、ものづくりの現場に触れてほしい！」という想いから、通院中の子どもたちとその家族を、イスを製造している追浜事業所へ招待し、親子工場見学会を開催しました。



工場を見て、イスに座って、 オリジナルの小物入れを作る！



小児がんの治療や、「ちあふぁみ！」活動についての話を伺ったうえで準備を進め、親子工場見学会当日を迎えました。通院中の子どもたちとそのきょうだいを含む家族がバスで追浜事業所に到着しました。

まずは工場見学会を担当する従業員から、追浜事業所のことや製造するイスの種類などについて説明し、実際にイスを製造する工場内を見学しました。参加者からは「溶接時の温度はどれくらいになるんですか？」などの質問も。見学会の途中で、製造現場の従業員が急遽会話に飛び入り参加、といった場面もありました。工場見学の後は、イスのショールームエリアで実際に座り心地を試してもらいました。さまざまなオフィスチェアのほか、ゲーミングチェアも用意されており、子どもたちは「リクライニングすると寝ちゃいそう」などと言いながら、楽しそうにいろいろなイスに座っていました。

イス用のレーザーの端切れを使ってオリジナルの小物入れを作るものづくり体験も行いました。小物入れのボタン付けに挑戦し、その後シールを貼ってデコレーションを施します。名前を入れたり、星型のスタッズを付けたり。完成後には、「こんなに本格的な革のグッズを作れるなんて思っていなかったです」と参加者から感想をいただきました。今後もこのような取り組みを通して、それぞれの地域での「人が活きる」に貢献できる機会に、積極的に参加していきます。

みんなで作る
ものづくりの
すてきなおもいで



INTERVIEW //

“私の方がオカムラのものづくりのよさを教わりました”



追浜事業所 製造管理部
松崎 彩

工場案内のガイドを担当しました。難しい内容も多く、参加者の皆さんに楽しんでもらえるか不安を感じながらの案内でしたが、ご家族揃って目をキラキラさせながら、オカムラのものづくりに興味を持っていただくことができました。普段ご案内することが多い取引先などのお客さまとは異なり、子どもたちの素直な感想はとても刺激になりました。積極的に質問をする姿や声を上げて驚く姿を見て、

私の方が、オカムラのものづくりのよさを改めて教えてもらったように感じます。また、ものづくり体験では、子どもたちが好きなデザインを考え、ご家族で仲良く作業する姿が印象的でした。子どもたちと一緒に一足先の夏休みを体験したような気分になった、とても楽しい時間でした。今後も地域の皆さまと触れ合える機会を大切にしていきたいと思えます。



Clean-up

きれいにすると・こころも・きもちいい

地域で取り組む清掃活動

生産事業所やグループ各社で自主的に清掃活動を推進

オカムラの生産事業所やグループ各社では、ゴミ拾いや草刈り、植栽の剪定など、その地域に合わせた清掃活動を行っています。こうした地域社会活動への参画は、その地域を愛し、地域とともに歩んでいく姿勢につながっています。

中央区まちかどクリーンデー活動 ～セックの取り組み

グループ会社のセック（東京都中央区）では、社会貢献と環境意識の向上を目的に、10年以上前から定期的に地域の清掃活動を実施しています。本社が台東区から中央区に移転した2018年以降は、中央区の「まちかどクリーンデー」に参加登録をしています。コロナ禍による自粛期間を除き、継続して活動しています。「まちかどクリーンデー」は、家庭や事業所などが自主的に輪を広げ、快適なまちを実現するための清掃活動です。毎月第3木曜日の朝9時から30分程度、約15名の従業員が自主的に参加し、本社周辺の道路や桜川公園の清掃を行っています。



セック
エンジニアリング本部
施工管理部
宮本 和孝

INTERVIEW

“現場をきれいにすると意識づけに”

会社として継続的な清掃活動を行っていることにより、社内の環境意識が高まっています。特に施工管理の業務にあたっては、施工現場をきれいにすると意識付けにもつながっています。

そうしているとおたがいに
なかよくなるね



清掃活動とコミュニケーション ～富士精工本社の取り組み

グループ会社の富士精工本社（石川県能美市）では、会社の環境方針の一つに「社会貢献活動を通じて、地域・社会とのコミュニケーションを拡大し、相互理解を深めます」という方針を掲げています。この社会貢献活動の一つが、地域における清掃活動です。この活動は、地域の皆さんとのコミュニケーションの機会にもなり、改めて地域あつての企業活動であることを実感する取り組みになっています。



スタジアムのクリーンアップ ～エヌエスオカムラの取り組み

グループ会社のエヌエスオカムラでは、環境活動の一環として「釜石鶴住居復興スタジアム・クリーンアップ活動」を行っています。このスタジアムには自社製品のベンチが納入されていることもあり、参加した従業員はベンチを眺めながら真剣に取り組んでいます。今後も社会・環境への貢献活動として積極的に取り組んでいきます。





さいがいに・きぎょうとして・できること

被災地支援・人道支援

被災された地域への支援

国内で発生した大規模自然災害で被災された方々の支援や被災地の復興のために、義援金および寄付金、物資による支援活動を行っています。

●東日本大震災（2011年）

被災地への義援金として、日本赤十字社へ1億円、岩手県へ1億円の合計2億円を寄付しました。また、被災地への支援物資として、家具など2億円相当の自社製品を、公共施設などの復旧・復興のために寄贈しました。これによって、岩手県、宮城県、福島県を中心に総額4億円の支援を行いました。



津波により建屋が倒壊したエヌエスオカムラの旧工場

●熊本地震（2016年）

被災地への義援金として4,000万円を寄付、物的支援として6,000万円相当の自社製品などを寄贈しました。これによって、熊本県と大分県に総額1億円の支援を行いました。

●西日本豪雨（2018年）

広島県に寄付金1,000万円、岡山県に義援金1,000万円、愛媛県に義援金500万円と寄付金500万円、総額3,000万円の支援を行いました。

●能登半島地震（2024年）

被災地への義援金として、石川県へ3,000万円を寄付しました。また、被災地での緊急人道支援のために活動する特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンへそれぞれ100万円を寄付しました。さらには被災地への支援物資として、家具など2,000万円相当の自社製品を、公共施設などの復旧・復興のために寄贈しました。



ウクライナへの人道支援

オカムラは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、ウクライナ国内およびその周辺地域で避難をする方々への人道支援のために、2022年3月に特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会を通じて、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ5,000万円の義援金を寄付しました。

その支援に対して、2022年10月に紺綬褒章を受章しました。紺綬褒章は、公益のために私財を寄付した功績が顕著な個人または法人・団体に対し、国が国家や公共に対する貢献を表彰する褒章制度の一つです。



左：株式会社オカムラ 常務執行役員 佐藤 喜一
右：特定非営利活動法人国連 UNHCR 協会 事務局長 川合 雅幸 様

すこしでも
ちからに
なれているといいね



Cooperation

つながる・パワーで・ちいきとともに

生産事業所の災害時に備えた地域連携



地域との連携によって災害時に迅速に対応

オカムラグループの生産事業所では、災害発生時に迅速な対応ができるよう、事業を行う地域で行政機関との連結協定を締結したり、地域の防災活動に参加しています。

追浜事業所は 横須賀市消防協力隊に



追浜事業所は、横須賀市消防協力隊として、横須賀市と協定を締結しています。横須賀市域において災害が発生した場合に、事業所の自衛消防隊が保有する資機材などを活用して、消火・救急および救助の活動を行うことにより、事業所周辺地域の被害の軽減を図ることを目的としています。また、地域の環境保全活動や治安維持活動などを行っており、多くの実績が認められ表彰されています。

●追浜事業所のその他会員活動

- ・横須賀市水質保全協議会
- ・神奈川県警察官友の会 田浦地区
- ・田浦暴力団排除対策推進協議会、田浦交通安全協会、田浦安全運転管理者会、田浦防犯協会
- ・追浜工業会
- ・横須賀危険物安全協会

●さまざまな地域表彰

- 2017年 5月 神奈川県環境全協議会 環境保全会長表彰
- 2021年 6月 神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰「優良危険物事業所」
- 2021年 11月 優秀安全運転事業所表彰（金賞）
- 2022年 2月 横須賀市環境保全活動表彰
- 2024年 3月 横須賀市優良防火管理事業所表彰

高島事業所では 地域との災害協定を締結



高島事業所では、近隣の自治体と、地域社会に甚大な被害を及ぼす自然災害が発生した際には互いに協力・協調することを合意しています。また、災害時の消防協力事業所になっており、地域で火災が発生した際には、消防団に所属している従業員が消火活動に協力します。

このほか、大雪が降った際には、除雪した雪の一時置き場として事業所敷地を無償提供しています。2019年の台風19号の被害で近隣の水田が水没した際には、収穫した稲わらの一時置き場として敷地を無償提供しました。

ひとくちメモ

タイでは他社と協力して防災訓練！

Siam Okamura Steelでは、周辺にある9社が協力して防災訓練を行っています。災害への備えが大切なのは、海外企業でも一緒です。



関西オカムラでは 自衛消防隊を結成



関西オカムラは、東大阪市西防火協力会に参加しています。社内の自衛消防隊があり、近隣で火災が発生した場合には出動する体制になっています。地域の防災大会の消火の競技（消火器操法、消火栓）にも出場しました。自衛消防隊の活動は、西防火協力会から表彰されています。

また、工場の表門にはAED設置の表示を行い、緊急時に地域の方々が使用できるように周知しています。

こまったときの
たすけあいは
だいじだね





ふじさん・みたいに・どっしりとくむ

富士事業所の地域に対する取り組み



地域に火災があった場合に 市からの出動要請に対応

御殿場市消防団協力事業所表示制度とは、御殿場市消防団の活動に対して積極的に協力している事業所などへ消防団協力事業所表示証を交付する制度です。富士事業所は2011年より「御殿場市消防団協力事業所認定」を受けています。富士事業所に勤める消防団員は、地域で火災が発生した際、勤務時間中でも消火活動に駆け付けます。

災害発生時には 地下貯水槽の水を提供

2022年11月に御殿場市と締結した「災害時における支援協力に関する協定」を受け、災害発生時には、富士事業所の地下貯水槽の水を地域住民の方々に提供します。その目的は、災害時における市民生活の早期安定を図るため、生活用水の提供を迅速に行います。大規模災害に伴う停電が発生した場合でも、給水作業で使用する揚水ポンプの電源を確保し、支障をきたすことなく地域支援を実施することができます。

取り組みの具体概要

- ・市民の皆さんに提供する水を地下貯水槽から揚水するためのポンプを設置
- ・効率よく水の提供を行うために給水エリアを3カ所設置
- ・太陽光発電システムで、蓄電した電力を使用して貯水槽の水を停電の際は汲み上げ
- ・太陽光発電の電力を使用したスマートフォン充電設備を設置し市民の皆さんに提供



こうした取り組みは、停電時の電源確保など、さまざまな場面を想定した給水支援対応について考えるきっかけにもなっています。実際に災害が発生した場合を想定して「何が必要なのか」「現状では何が不足しているのか」を考えたことが、支援内容の拡充へとつながっています。

非常時には地域の皆さんが AEDを利用可能

災害だけが非常時ではありません。富士事業所の入門所にはAEDを設置し、非常時には地域の方も利用できるように示しています。



…………… 張り紙の内容 ……………

緊急時！いざという時！

(株)オカムラでは一般の方、どなたにでもAEDを活用して頂き1人でも多くの方の命を救って頂きたいと思っております。

誰かの助けが1人の命を救います!!!

ひとを
たすけられるのは
みんなのこうだね



Scholarship 

つぎの・みらいを・つくるひとたちへ

奨学金による次世代の支援

～ JEES・オカムラ次世代育成奨学金～



「JEES・オカムラ次世代育成奨学金」を設立

オカムラのパーパスは「人が生きる社会の実現」です。2021年より、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）*の冠奨学金事業に寄付を行い、この寄付金を原資として、デザイン分野の人材育成支援を目的とした返済義務のない給付型奨学金「JEES・オカムラ次世代育成奨学金」を設立しています。

*公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）：日本人学生および外国人留学生などの修学援助を目的とした公益財団法人。その事業の一つである「冠奨学金事業」は、企業または個人などからの寄付を原資に、寄付者の名を冠した奨学金を設立、JEESの公益目的事業として実施する事業。

お互いが想いを語り合う奨学生交流会を開催

毎年、奨学生との交流会を開催しています。2024年度はオカムラのオフィス・ショールームに11名の奨学生を招待し、オカムラからは社長をはじめ役員、奨学生が在籍する大学の先輩である従業員も参加しました。

奨学生の皆さんは、大学などで学んでいることを発表。社長からはこの奨学金設立への想いや奨学生への期待などを伝えました。先輩従業員はショールーム見学や懇親会を通じて、奨学生にオカムラでの仕事を紹介しました。

オカムラが大切にしてきたデザイン分野育成に貢献

オカムラは創業以来デザインを大切に「デザインオリエンテッド」志向を経営の柱としてきました。現在も、インハウスのデザイナーの多さなどにその考えが表れています。この奨学金制度は、オカムラが大切にしてきたデザイン分野育成に貢献したいという想いから、私立の美術大学でデザインを専攻する学生を対象としています。

今後もデザイン分野を学ぶ学生に対して、在学中および卒業後の経済的な不安を緩和し、学業に専念できる環境を整え、将来デザイン分野で活躍できる有望な人材の育成を支援していきます。

// INTERVIEW //



奨学生・Kさん
大学で情報デザインを専攻

“奨学金は新たなチャレンジの助けにもなっています”

私は自分の手でピンホールカメラを制作し、撮影することで今までにない新しい表現ができないかを模索しています。制作以外では学生主体の映画祭を企画して開催しました。新しいことに挑戦するには多くの困難がありますが、奨学金は普段の生活や制作に加えて、新たなチャレンジの際の助けにもなりました。



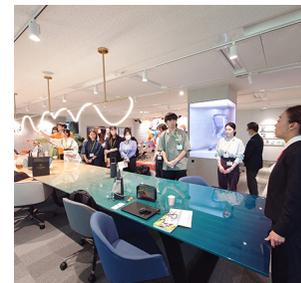
奨学生・Mさん
大学で環境デザインを専攻

“いつかオカムラとの仕事ができることが楽しみです”

奨学金は各地の有名建築を見学したり、海外での設計ワークショップに参加したりと、大学外でデザインのための知識や視野を広げる活動にも使わせていただいています。卒業後は大学院に進学し、地域と共存する建築をより深く学んでいく予定です。同じ設計に携わる職種なので、いつかオカムラと仕事をさせていただけるのを楽しみに、今後もデザインを学んでいこうと思います。

またいつか
オカムラと
あえるといいね





Nature 

かんきょうを・あしたへ・つたえたい

環境活動を通じた地域社会との共生

オカムラの知見を活かして 環境意識の向上に貢献

ものづくりや事業活動で得た知見を活かした環境教育を実施し、地域の環境保全活動に参画しています。これらの活動を通じて、地域社会との共生を図るとともに環境意識の向上に貢献しています。

枝や葉を拾って机にするなど 小学校での環境出前授業

子どもたちの環境意識の向上を目的に、従業員が小学校に出向いてオカムラが蓄積してきた知見などをもとに授業を行っています。授業の中では、子どもたちにとって身近な学校の机とイスを題材に、世界と日本の森林の現状や資源の有限性を伝え、環境問題が身近な問題であることを学び、自分たちにできることを見つけて行動する気付きの場を提供しています。神奈川県横浜市立権太坂小学校では、4年生が「木の魅力を伝える」ため、学校の中の木でできたものを探して、木が使われている理由を探ったり、本物の木に触れる体験をしました。また、京都府の宇治市笠取小学校では、全校生徒が学校林で枝や葉を拾ってチップにし、それが天板となって自分たちの机になるという「資源の利用」を実際に体感する授業を行いました。



えだやはっぱが
つくえになったら
かんとするね



環境出前授業実績

実施年度	対象人数	対象学校数
2007-2019	4,324名	51校
2020	197名	4校
2021	506名	8校
2022	865名	13校
2023	365名	7校
2024	528名	10校



関東学院大学での寄付講座

オカムラが会員となっている横浜グリーン購入ネットワーク*では、寄付講座を実施しています。「木材利用によるサステナビリティの推進」をテーマとした講座では、学校法人関東学院大学にて2021年から従業員が講師を務め、オカムラの環境への取り組みを紹介しています。

*横浜グリーン購入ネットワーク：地域とのつながりを大切にし、市民と企業・団体、行政が協力して環境に配慮した製品・サービスの購入や提供を推進していくことを目的に活動するネットワーク（グリーン購入ネットワーク（GPN）の横浜における地域組織）

産学連携による活動

家具デザインの教育支援、地域材の利活用を通じた人材育成・地域活性化の取り組みの一環として、2014年度から東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科の「家具デザイン演習」においてオカムラの従業員が特別講師を務めています。また、山形県小国町との産学官での連携活動として継続してきた同町の3歳児に贈る「ファーストファニチュア事業」を、2024年2月に実施しました。

ひとくちメモ

環境コミュニケーションのオカムラ！

オカムラグループでは、1995年に環境パンフレット「豊かな未来へ」を発行して以来、さまざまな媒体を通じて環境情報を発信し、環境コミュニケーションの充実に努めています。



Support 

ひとりひとり・それぞれに・ていねいに

特別支援学校や大学での人材育成

知的障害特別支援学校で
「物流」の仕事について伝える

物流システム事業本部では、東京都立青島特別支援学校の職能開発科物流コースの外部専門員として従業員を派遣し、2023年4月から授業のサポートを行っています。同校は、日本初の公立の知的障害特別支援学校であり、軽度知的障害児の自立・就労支援の一環として、2023年に新たに職能開発科が開設されました。職能開発科の教室づくりに伴いラックやコンベヤ、ピッキングする商品が一目で分かるデジタル表示器などの物流システム機器の導入をオカムラが担当しました。生徒たちが卒業後に実際に行う物流現場の作業を、授業で実践できる環境をつくっています。

実務経験を活かして
大学講師として人材育成に貢献

デザインや研究などの業務を通じて得た知見を活かし、複数の従業員が大学の非常勤講師を継続的に務めています。学校法人関東学院大学や学校法人日本大学では、半期を通して、エルゴノミクス（人間工学）やプロダクトデザインなどの実務者として、実践的な事例や新しい技術を紹介しながら講義を行っています。また、国立大学法人大阪大学とともに、教育における産学共創プロジェクトの一つとして、2019年度よりアクティブ・ラーニング型の「オン・キャンパス・インターンシップ」を開講。次世代の育成に貢献しています。



INTERVIEW //



物流システム事業本部
物流システム営業部 東京西支店
藤澤 航洋

“ 理解に差があるので繰り返し伝えることが大切でした ”

2023年度に青島特別支援学校に新しく職能開発科を開設するにあたり、オカムラへ教室づくりの相談があり、私が営業として担当しました。実際の物流現場で活用するラックやコンベヤなどを導入し、生徒たちが卒業後物流の現場で実際に行う作業を授業で実践できる教室づくりをしました。同時に、物流コースの講師としても協力してほしいとお声がけいただき、外部専門員として講師を務めました。授業では、「物流」とは何か、どういった仕事があるのかを実践しながら伝えたり、ピッキングや仕分け作業でのアドバイスを行ったりしました。元気がよく素直な生徒たちは、内容を理解するとすぐに行動に移り、分からないことはきちんと聞いてくる様子が印象的でした。また相手によって理解

に差があり、繰り返し伝えることの大切さを感じました。誰かに指導する経験が少ない私は、きちんと伝えられているのかわれども不安もありましたが、続けてほしいとの依頼があり、自信にもつながっています。また、私自身の仕事の気づきや学びにもつながっています。講師をする中で「物流」という仕事への理解がより深まったと感じたので、今後は、同じ部門の新入社員も参加を予定しています。障がいのある生徒たちが、卒業後物流現場で働く手助けとなれば幸いです。

オカムラの
ノウハウも
つたわるね



Program 

ともに・かんがえると・ひかりがみえる

中高生向けの探究学習プログラムに参画



企業を活用して自分たちの手で 未来をつくることを学ぶ

オカムラは、2022年度より株式会社教育と探求社が開発・提供する中高生向けの探究学習プログラム「クエストエデュケーション」の企業探究コースである「コーポレートアクセス」にプログラム全体で参画しています。「クエストエデュケーション」とは、教育と探求社が2005年にスタートした、現実社会と連動しながら「生きる力」を育む探究学習プログラムです。これまでに約44万人の中高生が学校の授業として学び、2023年度は全国42都道府県、440校の約8万8000人の中高生が取り組みました。オカムラが参画する「コーポレートアクセス」は、実在する企業へのインターンシップを教室で体験し、働くことへの意義や経済活動について学び、企業という仕組みを活用して自分たちの手で未来をつくることを学ぶプログラムです。参加する中高生たちはフィールドワークやアンケート調査など企業の実務を体験し、その企業から提示されるミッション（課題）にチームで取り組みます。参画企業の従業員が学校訪問などを通して、中高生たちの探求活動に伴走します。



「生きる力」の育みに貢献しつつ 社内の人材育成にもつなげる

「コーポレートアクセス」において、オカムラでは、「ミッション提供」「教材づくり」「学校訪問」などに取り組んでいます。次世代を担う子どもたちの主体的な学びに関わり、「生きる力」を育むことに貢献しながら中高生と共に未来を描くことにより、社内の人材育成にもつなげます。また、このプログラムにオカムラが参画するうえでのテーマは以下の4つです。

- **次世代育成支援**
社会貢献活動方針による次世代育成支援活動

- **α世代に対する知名度向上**
中高生にオカムラを知ってもらい、オカムラのことを考えてもらう

- **新たな視点や発想に出会い、自らを成長させる**
従業員の成長が、「新たな需要の創出」へつながる

- **α世代のリアルに触れることで新たな価値・サービスの創造へ**

新たな創造力を持ち 社会やものづくりを支える人材へ

2023・2024年度は約40名の従業員がこのプロジェクトに参加しました。企業として蓄積してきた経験を活かしながら、次世代を担う中高生の主体的な学びに関わっています。時代の流れを捉えて新たな創造力を持ち、明日の社会やものづくりを支えていく人材の育成につながり、中高生の成長にも貢献する活動として取り組んでいきます。

コーポレートアクセス活動データ

	2022年度	2023年度	2024年度
オカムラのミッションに取り組んだ生徒数	約1,550名	約1,520名	約1,640名
学校訪問校数	39校	50校	80校
学校訪問延べ数	54回	94回	131回



つぎのせだいも
オカムラのひとも
いっしょにまなぶんだね



Program 

ともに・かんがえると・ひかりがみえる

中高生向けの探究学習プログラムに参画

～ 2023 年度の「コーポレートアクセス」～



リアルタイムのわくわく感が かけがえのない宝物

2023年度の「コーポレートアクセス」では、オカムラが「実現したい未来」を手がかりに、中高生たちがグループで調査や議論をしながら自由な発想で企画を考え、探求活動に取り組みました。オカムラのプロジェクトメンバーが学校に訪問し、中高生とのディスカッションや対話を通じて一緒にアイデアを出したり改善ポイントを伝え課題の本質的な部分を指摘しながら、深いところまで考えます。答えのない問いに立ち向かうため、試行錯誤の連続でした。そんな中でも、新しい視点が見つかったときの「なるほど!」や、生徒たち自身の「これやってみよう!」が炸裂する瞬間があります。この、何が飛び出すか分からないリアルタイムのわくわく感こそが、このプロジェクトの醍醐味です。



オカムラのミッションに みんなで挑んでサービスを企画

2023年度の総括として開催された「クエストカップ 2024 全国大会」で、オカムラの「企業賞」を受賞した学校と作品を紹介します。



学校名：昭和学院秀英中学校（千葉県千葉市幕張）
チーム名：OKAMU 船長
作品名：BACK TO THE PAST ～時空を超えて人とつながる～

作品内容：

オカムラが提示したミッション 私『あいまいさが活きる』未来をつくる オカムラの革新的なサービスを提案せよ！

ミッションの解釈

「あいまいさ」とは、ぼんやりしたものや鮮明でないものであると解釈し、人々の記憶から薄れてどんどん不鮮明になる「思い出」に結び付け、「思い出をうまく活用する」サービスを企画しました。

提案内容

オカムラの空間づくりと最新技術のVRを用いて過去に戻り、会いたい人と会話ができるサービスです。具体的に2つのことが実現できます。

- 過去の自分と話せる
自分が生きている間に未来の子供や孫のために情報を残すことができ、自分の死後もクローンが他者と会話できます。
- 故人と再会できる
今はもう会えない人、会ったことがない人と会話できます。

利用方法

専用アプリを起動し、会いたい人やシチュエーション、どのような過去に戻りたいかを入力すると、QRコードが生成されます。決済は電子マネーで行えます。また、生成されたQRコードをオカムラのイスに読み込ませ、VRゴーグルを装着することで過去に戻ることができます。

INTERVIEW



オフィス環境事業本部
中部支社 マーケティング課
セールスプロモーションセンター

河田 佳美

“ 私たちも多くの刺激を受ける
良い機会となりました ”

オカムラのミッション「私の『あいまいさが活きる』」は、大人の私たちでも解釈が難しく、とても考えさせられるお題でした。しかし、学校訪問などで生徒たちと対話を繰り返し、発表に対してフィードバックする中で、どんどんアイデアが深まっていきました。継続して見守ってきたからこそ、生徒たちの熱い想いや変化を感じることができ、立ち会えたことをうれしく思います。このプロジェクトは、生徒たちの探究学習としての学びの場ですが、大人の私たちも生徒たちと関わることで学び、多くの刺激を受ける良い機会となりました。



おもいでを
いかすなんて
すごいアイデアだね



Inclusion

だれもが・きらきらと・かがやいている

みんなでインクルーシブな社会の実現へ



一人ひとりが 自分らしく生きられるために

オカムラグループでは多様性を重視し、一人ひとりが自分らしく生きられる“インクルーシブな（排除しない）社会”の実現に向け、さまざまな取り組みを推進しています。

障がい者福祉施設の皆さんによる 「ビオトープ富士」の整備作業

富士山の麓にあるオカムラの富士事業所では、2022年9月、敷地内のうっそうとした竹林だった場所を、約3,000平方メートルの「ビオトープ富士」として整備しました。そこには、エリアを活用して自然環境の改善に貢献したいという想いがありました。既にさまざまな野鳥が飛来して植物の種が運ばれてくるなど、地域の生物多様性につながっています。

ビオトープの維持管理は、とても大切な業務です。ここでは障がい者福祉施設の皆さんに協力いただき、週3回草取りを実施しています。そのおかげもあり、「従業員や地域住民と共に環境活動の場、環境教育の場、憩いの場を提供している」と評価され、日本ビオトープ協会が主催する第15回ビオトープ顕彰でCSR特別賞と地域貢献賞を受賞しました。



福祉事業所との交流を育む 「おやつ de 社会貢献」

オカムラグループでは、障がいのある人が社会と関わり就労訓練の場となるよう、交流の機会を創出しています。この活動は、オカムラグループの従業員が障がい者を理解する学びにもつながっています。

福祉事業所の皆さんが製造したお菓子を購入することで自立支援につながる「おやつ de 社会貢献」を、オカムラの各生産事業所や、横浜のオフィスで実施しています。福祉事業所の皆さんにオフィスに来ていただき、ラッピング作業をオフィスにいる従業員と一緒にを行い、そのお菓子を直接販売していただきます。回を重ねて実施していく中で顔見知りになり、にぎやかに会話をしながら楽しいふれあいの時間が生まれています。



カラーサンプルチップの製作などで 障がいのある方々とつながる

オカムラでは、障がい者の就労支援を行う企業を介して近隣の福祉事業所に委託し、障がい者に各種作業を担っていただいています。その一つに、追浜事業所で行うシーティングの張地の余り部分を活用したカラーサンプルチップの製作があります。



オカムラは
たくさんのひとに
ささえられているんだね



ひとくちメモ

うれしいポップコーン！

中井工場では、障がいのある人が就労する機会をできるだけ生み出せるように、積極的に活動しています。その一つが、福祉事務所の皆さんによるポップコーンの出張販売です。工場の敷地内に開店していただき、毎回工夫を凝らした販売と丁寧な接客に、笑顔の輪が広がっています。





はたらくことから・りかいを・ふかめる

多くの視点で考えてみる「働きかた」



「発達障がいと働く」をテーマに 対話や体験を通して考える

2023年の発達障がい者啓発週間に、「みんなに優しい『ラクワク』オフィスって？～発達障がい当事者の声から生まれたカードゲームを使って『自分らしい働く空間』を考えよう in Nagoya」と題し、一般社団法人チャレンジドLIFEとオカムラが共催のイベントを名古屋で行いました。

企業や組織において、ワーカーそれぞれが持つ多様な個性を最大限に活かすことがより高い価値創出につながる、という認識が広がっています。発達障がいによる特性も多様な個性の一つとして、より多くの人々が理解しお互いに認め合うことで、一人ひとりが生き生きと働く環境が生まれます。このイベントでは「発達障がいと働く」をテーマに、「誰も取り残さない」働く環境を実現するための環境づくりやプロジェクトづくりのヒントを、対話や体験のワークを通して考えました。「自分らしい空間を描くカードゲーム」を使ったワークショップでは、多様性のある空間から個々の視点の違いを学び、気づきや想いを共有することによってお互いへの理解を深めるいい機会となりました。



車イスユーザーの立場になって 働くことを考える

2023年に福岡で、オカムラ主催による「ダイバーシティ&インクルージョンな働きかた～車イスユーザーから見たオフィス～」というイベントを開催しました。「障がい者とともに働く」をテーマに、企業の取り組みや障がいのある従業員の声を聞き、車イス体験のワークや対話の時間を通して一緒に働くことへの理解を深めました。また最後には車イスでの卓球体験も実施。車イスユーザーであることを参加者が体感しながら、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) な働き方をみんなで考えました。



ひとくちメモ

ワークがみるみる見えてくる！

働き方や働く場をさまざまなステークホルダーとともに描き、「はたらく」を変えていくことを目的として、「WORK MILL (ワークミル)」の活動を推進しています。この名前にはこれまでの当たり前にとらわれず、「さまざまな視点で(見る)」「価値を挽き出す(MILL)」の2つの意味を込めています。共創による価値創造や、目的や志を共有できるコミュニティづくりを目指しています。



「WORK MILL」では、多様な人たちとのオープンな共創プロセスのもと、「すぐに見られる」ウェブマガジン、「手に取れる」雑誌・冊子、「訪ねに行ける」共創空間を中心に活動を展開しています。



いろんなひとの
それぞれのことを
まなびあえるね



ぶんかや・げいじゅつも・しあわせのたねです

文化芸術支援

「OKAMURA DESIGN SPACE-R」で文化・芸術活動を支援

オカムラグループでは、音楽・美術・舞台芸術への協賛を行うなど、文化・芸術活動を支援しています。

オカムラガーデンコートショールームでは「OKAMURA DESIGN SPACE-R」と題して、2003年から2022年まで毎年（コロナ禍の2020年・2021年を除く）企画展を開催してきました。毎回異なるジャンルの複数のアーティストが、アートの枠組みを超えサイエンスとインダストリーの新領域にまで踏み込む意欲的なコラボレーションを展開。その知と美の新たな形成によって多領域に向けて確かなインパルスを発信し続けてきました。

ARCHIVE

01_ THEORIA	2003 北川原温×高木由利子
02_ 粒子がレスポンスする場=ニワ	2004 隈研吾×廣瀬通孝
03_ AWARENESS 今日の結界	2005 芦原太郎×山田宗徧
04_ TIME SCAPe 時間に触れる	2006 内藤廣×アルパロ・カシネリ、石川正俊
05_ 都市を歩く表象	2007 江頭慎×岡村製作所技術開発チーム
06_ 風鈴	2008 伊東豊雄× takram design engineering
07_ 透明なかたち	2009 妹島和世×荒神明香、佐々木睦朗
08_ PARTY PARTY	2010 小嶋一浩+赤松佳珠子×藤訪綾子
09_ ぼよん	2011 青木淳× MONGOOSE STUDIO
10_ Flow-er	2012 平田晃久×塚田有一
11_ 白い闇	2013 ヨコミゾマコト×上田麻希
12_ 波・紋	2014 古谷誠章×珠寶花士
13_ 雲の椅子の紙の森	2015 藤本社介×戸恒浩人
14_ 木のパーティション	2016 西沢立衛×金田充弘
15_ Cloud of Thoughts	2017 阿部仁史× WOW
16_ Somesthetic - 身体性 -	2018 新井千秋×大原崇嘉+古澤龍+柳川智之
17_ 旅	2019 横河健×小松宏誠+ sawako
18_ Tamping Earth	2022 齊藤正×本広組 Creative Salon FOE + 高井浩子+矢内原美邦

オカムラ主催の新たな企画展「OPEN FIELD」を開催

「OPEN FIELD (オープン・フィールド)」は、「人が生きる環境づくり」を目指すオカムラによる新しい空間デザインプロジェクトです。気鋭の建築家やアーティストによる展示、学生とオカムラの若手デザイナーが協働するイベントなど、空間デザインのこれからを考えていく活動です。

建築史家の五十嵐太郎氏をキュレーターに迎え、オカムラガーデンコートショールームにて気鋭のクリエイターによるインスタレーションを発表する企画展を年に1回開催しています。第1回となった2023年度は、建築家の中村竜治氏、アーティストの花房紗也香氏、テキスタイルデザイナーの安東陽子氏に参加いただき、「ほそくて、ふくらんだ柱の群れ—空間、絵画、テキスタイルを再結合する」のタイトルでインスタレーションを展示。第2回の2024年度は、建築家の山田紗子氏による線のような家具と、アーティストの丸山のどか氏による家具のような立体の両者が混ざり合う不思議な空間を、「ショールーム・フィクション 線のような家具と家具のような立体」というタイトルで展開しました。

ひとくちメモ

まさにオープンなフィールド！

「OPEN FIELD」では、オカムラのデザイナーとの協働や、学生が参加できるイベントを実施し、空間デザインを多面的に考察する機会を設けています。



すごいひとが
いっしょにやると
ますますすごいね



山岸伸写真展「KAO - 日本の顔 -」を開催

写真家の山岸伸氏の写真展「KAO - 日本の顔 -」を2023年からオカムラガーデンコートショールームで開催しています。この写真展は、山岸氏が2007年より撮影を続けているポートレート写真展がリニューアルされたものです。





ひとりの・げんきが・みんなのげんきに

スポーツ支援

スポンサーシップや協賛などの幅広いスポーツ支援活動

オカムラグループは、地域スポーツチームなどへのグラウンドの貸し出し、プロスポーツチームなどのスポンサーシップ、スポーツイベントへの協賛などを通じてスポーツ支援活動を行っています。ジャパンラグビーリーグワンのディビジョン2に所属する日本製鉄釜石シーウェイブスでは、エヌエスオカムラの従業員が選手として活躍しています。

スポーツチームのスポンサーシップの例

- 横浜 FC
- 日本製鉄釜石シーウェイブス



横浜 FC



釜石シーウェイブス

スポーツは
ひととひとを
むすびつけるね



ひとくちメモ

スポーツイベントもやってます！

パラアスリートが中心になってパラスポーツや障がいの理解を深めるための話をしたり、車イス体験や参加者と卓球と一緒に楽しむイベントを各拠点で開催しています。



パラ卓球アスリートの雇用・活動支援

2021年4月に公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）が行うトップアスリートの就職支援制度「アスナビ」を通じて、パラ卓球日本代表の七野一輝を採用しました。七野はサステナビリティ推進部 DE&I 推進室に所属し、仕事と育児の両立支援や障がい者支援、LGBTQ に関する取り組みを主に担当しています。世界に挑戦を続ける七野のアスリートとしての活動と業務を通じた社会への貢献を期待し、競技と仕事の両立を支援していきます。そして引き続き「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン方針」に基づき、多様な人財が生き活きと働き、十分に能力を発揮できる環境づくりを進めていきます。



Photo By M.Konakamura

@ M.Konakamura



INTERVIEW



サステナビリティ推進部

七野 一輝

“ 会社員×パラアスリートというワークスタイル ”

私は会社員とパラ卓球選手の2足の草鞋で働く「パラアスリート社員」という雇用形態で入社しました。就職活動時から競技活動と並行し、会社の業務も覚えたいという思いから、週2日オフィスに出社し、週3日午前在宅勤務後、午後練習・トレーニングというスケジュールで、仕事と競技の割合は五分五分を目安に働いています。大会前後や合宿などでイレギュラーとなることがありますが、その点は職場の皆さんに配慮していただいています。

全日本選手権や中国、フランスで開催された国際大会の現地にはたくさんのおカムラの皆さんが応援に来てくださいました。その声を力に試合ができたこと、そして入賞した際には自分事のように一緒になって喜んでくださったことがとてもうれしかったです。

また、オフィスに卓球台がある拠点で開催された卓球のイベントでは、普段お会いしない方とも卓球を通じて交流でき、他にも競技活動発信コミュニティや社内ラジオを見てくださった方からも「頑張ってるね！」「応援しています！」という声をいただけることが私のエネルギー源となっています。

今後も会社員として、パラ卓球選手として、1人前以上の成果が発揮できるよう、精進していききたいと思います。



表紙：パラリンアート作品



「colorful whale」

空想の世界は自由自在
海ですら窮屈なクジラ
そんなクジラを宇宙に泳がせてみた
みんなみんな
好きな色で好きに泳げたらね

作家：全盲の画家 オバケのタムタムさん



「パラリンアート」は、「障がい者がアートで夢を叶える世界」を作るために、一般社団法人障がい者自立推進機構が推進する取り組みです。
民間企業などは障がい者アーティストのアート作品（絵画・デザインなど）を利用し、その対価をお支払いすることで、障がい者の社会参加を支援しています。

人を想い、場を創る。

OKAMURA

株式会社オカムラ サステナビリティ推進部

<https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/>